

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

シケ続きで出船できない日は多いが、茨城の春ヤリ、マダイの乗っ込みと海の中は着実に春色に変わりつつある。春本番も間もなくだ。



▲北茨城のヤリイカはこれからが本番

北から始まる春ヤリシーズン 初夏までのロングランに期待

◎茨城県平潟港発↓平潟沖

本誌ABC(東京)権名義徳 Yoshinori Shimizu

アカムツのニュースポットとして北茨城平潟港が着目されて数年たつが、アカムツシーズン終了後からスタートするヤリイカ釣りも人気急上昇中のようなだ。

平潟港の第15隆栄丸では今シーズンは2月4日にスタート。アカムツ狙いからの途中切り替えだったが、トップで30杯を超える釣報が届いた。その後もいい日にはトップで60杯を超える釣果も上がっている。

シケに阻まれ、やっと出船にこぎ付けたのは2月25日。ヤリイカ好スタートの報にファンは反応は早く、当日も19人の釣り人が集まる大盛況ぶりだ。

3杯掛けに大興奮

4時過ぎに舳が解かれた本船は港を出ると一路北東方向へ。釣り場の北沖(四倉沖)

知得! Tips and Tricks 北茨城沖のヤリイカの回遊路は?

北茨城・いわき沖海域のヤリイカは南部から北上してくるものと思っていたが、遊漁船を開業する以前は大型トロール船の船長を務め、同海域のヤリイカを漁獲していた鈴木和次船長の答えはノー。詳しく聞いたところ、このイカは秋に金華山沖で湧いたものが、水深130~180メートルラインを成長しながら南下。その群れがいったんこのいわき沖の磯(根のこと)に着き、さらに平潟沖、日立沖へと移っていくという。

現在のように釣れる水深が深い時期は釣り場までの距離が遠いということもあり限られた船しか採集しないが、サクラの時期(4月)になると航程20~30分、水深50~70メートルの浅場が上がってくるので、その時期からこぞって遊漁船が繰り出すようになり、例年5月一杯まで賑わうとのことだ。

▶今後は群れのさらなる南下に期待



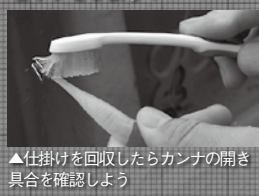
までは2時間強の航程だ。6時半に釣り場に到着すると同じ平潟港の僚船のほか福島県小名浜港、久之浜港からの遊漁船も集結。「オモリ150号でやりますよ」反応を探すまでもなく、潮上に乗ったところで「やるよ

!」のアナウンスに続き、プーッと投入合図の汽笛が鳴る。水深は160メートル前後。道糸は左舷ミヨシから右舷トモに向けて流れるが、速過ぎるほどの流れではないようだ。着乗りを期待したが、なぜか沈黙。数名に乗りがあった

が、マルイカと間違えてしまうような小型ばかり。「なんだ!? 反応あんけど乗り悪いな」と船長。出だしは悪かったが、その心配はすぐに払拭された。周囲が明るくなるにつれ電動リールの巻き上げ音があちらこちらで響くようになってきた。釣れ上がるヤリイカも胴長40~50センチのパラソルサイズばかり。しかも肉厚のグッドコンディション。

Tackle Guide

釣れるヤリイカのサイズが大きいため、カンナ伸びによるバラシも多かった。仕掛けを回収したら必ずカンナのチェックをしよう!



▲仕掛けを回収したらカンナの開き具合を確認しよう

初めての超ビギナーだ。投入から取り込みまで一通りのことをレクチャーしたが、とくに強く教えたことは、①ひとしゃくりし、次のしゃくり動作に移るときは必ず竿を開けること。②しゃくるときは常に竿先を注視すること。しゃくりはただ竿を上下させるものではなく、手感と目感度を合わせる意識で行うことがポイントだ。

最初の1杯は上げたら掛かっていたうっかり釣果だった。2杯目からは、「あっ、これきました!」としっかり乗りをキャッチできた。乗りをつかめるようになったところで今度は追い乗りテクニクをレクチャー。乗りをキャッチしたら、ゆっくりリールをひと巻



▲大ヤリ多点掛けのズッシリした重量感が楽しい

きしては1~2秒ストップを繰り返しながら10メートルくらいまで巻き上げたところで電動巻き上げ開始。また、巻き上げ時は竿はキーパーに置かず、必ず脇に抱え持つことも。波で船が持ち上がったときとイカの抵抗が引き合ったときに身切れ(足切れ)してしまわないよう、身体のパネでいなすのだ。

「ウハッ、すごい!」で上がったのはパラソルサイズの3杯掛け。追い乗りが決まって大興奮だ。

イカの群れは広くいる

船内を回り皆さんの仕掛けを拝見すると、ツノはシングルカンナの人とダブルカンナの人と半々の割合。相模湾や南房エリアでヤリイカを狙う人はダブルカンナは乗りが今イチと敬遠する傾向があるが、魚影が濃く、し

かもスレていないからか、シングルでもダブルでもイカは選り好みせず乗ってくる。船の流し方も1流し30分前後の大流し釣り。その間何回でも打ち返し(再投入)が可能。自分のペースで釣りができるからビギナーにも優しい。しかし大流しの場合、再投入した人の仕掛けが潮下の人の仕掛けに被り、オマツリしやすいといったデメリットもある。そのため船長はツノ数は5本を基準に多くても7本、ビギナーなら3本に抑えることをすすめている。

サバの邪魔がうるさかった時間帯もあったが、仕掛けが底に届きさえすればズンッと大ヤリがしゃくる腕を止めてくる。後半はさらに乗りがよくなりパラソルサイズの3杯掛け、4杯掛けと重量感タップリのシーンも。皆さんの足元のタールは銚色の剣先がひしめき合っており、もう十分と早々に片付けを始める人も出る。正午の沖揚がりですトップは56杯。平均30~40杯でビギナー義英君も30杯以上の釣果を上げてご満悦。

船団というより、各船広範囲に散らばっている状態だが、どの船もまんべんなくイカは乗っているようだ。「こないだまで平潟沖で釣ってたけど、今日は様子見に遠くまで来てみたんだ。イカは広くいるね。まだまだ新群れが入ってくるよ」と船長も今シーズンのヤリイカにいい手応えを感じているようだ。


平潟沖の大ヤリ前線はこれからさらに南下し、そして浅場へ。ビギナーでも大いに楽しめるヤリイカとなる。

●船宿information

茨城県平潟港

第15隆栄丸

☎0293-46-3980
(詳細は巻末の情報欄参照)



鈴木 和次船長

▶料金=ヤリイカ乗合一人1万5000円(泳付き)
▶備考=予約乗合。釣り場が近くなったときは料金に変動あり